

2019年度 ケーブルテレビ放送番組審議会 (栃木チャンネル) 議事録

1. 概要

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書類による審議

審議資料を郵送し回答を求め、審議委員総数 10 名うち 9 件の回答がありました。

2. 審議委員（敬称略）

大 川 秀 子	会 長	（栃木市長）
膝 附 武 男	副会長	（栃木商工会議所副会頭）
阿 部 勝 彦	委 員	（大平町商工会会長）
伊 藤 邦 夫	委 員	（藤岡町商工会会長）
三 室 一 男	委 員	（都賀町商工会会長）
山 岸 弘 幸	委 員	（西方商工会会長）
安 藤 芳 雄	委 員	（岩舟町商工会会長）
池 田 正	委 員	（栃木警察署長）
石 田 栄	委 員	（栃木市消防本部消防長）
柳 田 和 子	委 員	（栃木市女性団体連絡協議会会長）

3. 報告事項

【全体】

- (1) 審議会の新設に関する報告
- (2) 委員の委嘱に関する報告
- (3) 放送エリア及び加入状況に関する報告
- (4) ケーブルテレビの取り組みに関する報告（2019 年度）
- (5) 昨年の審議会でのご指摘・進捗状況報告

【コミュニティチャンネル関連】

- (1) 2019 年度栃木チャンネルに関する報告
- (2) 主なレギュラー番組に関する報告（2019 年実績）
- (3) 特別番組に関する報告
- (4) 番組コンクールでの受賞についての報告

4. 議事

(1) 事前に視聴した番組に関する意見・質問

【対象となる番組】

〈ニュース〉とちぎ HOT ステーション（2019 年 12 月 10 日放送）

〈防 災〉 台風 19 号関連緊急生放送（2019 年 10 月 12 日放送）

〈企 画〉 マンホールカードに魅せられて（2019 年 8 月放送）

〈4K 撮影・全国配信〉 けーぶるにっぽん 躍動！JAPAN「プライドを賭け心つなげ 綱引」

質問・回答

■とちぎ HOT ステーション（2019 年 12 月 10 日放送）

【委 員】「ど田舎にしかた祭り」は素晴らしく、地元に着の番組だった。

【委 員】地域のお祭りやイベントは、一緒に参加している気持ちになれる。地元の人の声や感想もうまく聞いている。

【CATV】「地域のテレビ局」として身近な情報が求められていることをあらためて認識しました。さらに多くの情報をタイムリーに伝えられるように努めます。

■台風 19 号に関わる緊急放送（2019 年 10 月 12 日放送）

【委 員】避難勧告を放送するのは大事なこと。たとえ大きな被害が出ずにお知らせが「空振り」に終わろうが、とにかく早め早めの情報発信をお願いしたい。

【委 員】緊急時に必要な番組だが、映像から若干危機感を感じない面があった。

【委 員】（被害があった当日の）16 時 30 分頃の巴波川の状況を、テレビで見て確認できた。危機管理上大変良かった。河川の様子を映しながら避難勧告を知らせる放送は緊迫感があり、ラジオで聞くよりもリアリティがあった。避難の呼び掛け等をテロップで出て分かりやすかった。

【CATV】5 年前の「関東・東北豪雨」の経験を踏まえて緊急放送が速やかに実施でき、ライブカメラの整備で映像を生中継することもできました。しかし、お客様からも様々なご指摘やご意見をいただいています。今後もライブカメラの増設や AI アナウンサー、動画投稿システムなどの導入を検討し、災害に備えます。

■マンホールカードに魅せられて（2019年8月放送）

【委員】興味深く見た。面白さを感じた。

【委員】市外からの観光客が朝早くからカードを求めて、この栃木市を訪れ観光していることが分かり良い企画だった。あらためて栃木市の良さを知った。他県、他市町村からの来場者が多いことに驚いた。特典を設けるなどしてカードを活用すれば、さらに栃木市の観光PRにつながるのではないかと。

【CATV】この番組の撮影には長時間を要しましたが、その内容が反映できました。地域の方が地元の良さを再発見してもらえるような番組を制作していきます。全国のケーブルテレビとのネットワークを生かして番組を配信し、全国に栃木市の魅力を発信する取り組みも実施してまいります。

■けーぶるにつぼん 躍動！JAPAN「プライドを賭け心つなげ 綱引」4K制作・全国配信

【委員】臨場感があり、綱引きに対する熱意が伝わってくる番組だった。

【委員】家族の応援やメッセージが入るとより感動的な番組になったのではないかと。

【CATV】大会まで1ヵ月という期間で取材を始めたため周囲からの応援などを盛り込めませんでした。応援の様子が盛り込めれば番組内容にはさらに厚みが出せたと考えています。計画的な取材・番組制作ができるように、年間スケジュールを作成して取り組んでいきます。今後も市内の自然や史跡、イベントなどを4Kの高精細な映像に収録して、「地域の財産」として撮りためて、4K制作に積極的なケーブルテレビ業界で、ほかの局と連携して多くの方に栃木市を知ってもらえるよう広めてまいります。

■視聴番組全体に関する意見・質問

【委員】これからも市民のコミュニティづくり、生活の充実や安全・安心につながる情報提供・番組制作に努めてほしい。

【委員】番組内容は良いが画質がもう少し鮮明だと良い。

【委員】「ど田舎にしかた祭り」や「マンホールカード」のようなイベントは、開催の由来や効果等が見えにくいいため、自己満足や不満が残る状態で終わってしまうことが多い。ケーブルテレビが放送でそうした部分を補完することで、とても効果大きい。市内の様々なイベントや緊急情報を伝えることで、ケーブルテレビが市民にとって身近な存在になっていると感じる。

【CATV】イベントの関係者だけでなく、番組をご覧いただいた方が少しでも有益な情報を得られるように、現場スタッフの取材力を養ってまいります。取材現場では

必要に応じて簡易的なライトを使うなど、綺麗な映像が撮れるよう努めます。

(2) コミュニティチャンネルに関する意見・感想

質問・回答

- 【委員】 平時は市民生活を豊かにする番組制作に尽力してもらい、災害時はリアルタイムで市民の安全・安心に直結する情報の発信など、協力に感謝している。市民の声を集めて、今後とも行政と市民をつなぐツールになって欲しい。地域性を活かした番組を制作してもらいたい。栃木市の特徴を捉えた独自性のある番組で、市内外へのアピールにつなげて欲しい。
- 【委員】 身近な情報や地域のイベントなどタイムリーな情報が分かりやすく、映像もしっかりしていて撮影方法も良い。
- 【委員】 新型コロナウイルスの話題で持ちきりだが、知りたい身近な情報がない。プライバシー保護の問題もあると思うが、デマに惑わされない正しい情報が必要だ。
- 【委員】 消防本部からの取材依頼を快く引き受けてくれて、消防本部・消防団のPRに尽力してもらい感謝している。
- 【委員】 去年の水害から復旧できていない所がある。そのフォロー（追跡・支援など）取材をして欲しい。101ch、102chにはLIFEチャンネルがない。この考え方や方向性について教えて欲しい。
- 【CATV】 新型コロナウイルスの影響を受けて、SNS等を通じてデマも含めてたくさんの情報が出ました。こうした時こそ正しい情報、地域が求める情報を発信するのがコミュニティ・メディアの役割です。休校になってしまった時こそ卒業式などに取材へうかがい、放送することで、町を元気づけたいと考えます。関係する皆様には丁寧にご説明し、協力と連携を呼び掛けていきます。
- 【CATV】 台風19号の支援に関する情報は今後も放送します。またLIFEチャンネルは、現状栃木エリアとして112chで放送していて、102chは近隣エリアの情報が見たいという方のために群馬・茨城の番組をお送りしています。ライブカメラは天気の移り変わりや交通の流れなど広域的な情報としての需要があり、カメラ増設などを今後も行ってニーズにお応えしていきます。

以上